

5月23日(土)付毎日新聞21面(東京版)に、3階に掲示してある校舎メッセージの記事を掲載して戴きました。記事を読んだ人もいますかと思えます。「生徒の皆さんに少しでも励ましになれば」との思いと社会を支えてくださる方への感謝の思いから掲示したのですが、地域でも話題となったようです。見ていない人は記事を1階廊下に掲示しておきますから学校再開され機会が訪れたら読んでみてください。

さて、皆さんは「エッセンシャルワーカー」という言葉を聞いたことがあると思います。英語でエッセンシャルは「不可欠な」、ワーカーは「労働者」を意味しますが、これらを組み合わせた言葉です。私たちの生活は行動自粛を求められていますが、校舎のメッセージにもある医療はもちろんのこと、食料、福祉、物流、エネルギー、金融、交通、生活関連など多くの職種の方々は、自身の感染の不安を抱えながらも私たちの健康や生活を支えるために懸命に働いてくださっています。皆さんのご家族の中にもエッセンシャルワーカーの方がいると思います。私たちの自粛生活も決して楽ではないですがもっと大変な思いをしながらも今を生きている人がいることを肝に銘じ、その皆さんの奮闘に心から感謝したいと思います。

一方で、これまで医師の子どもであることだけを理由に保育所の登園を拒否されるなどといった偏見や差別が起こっていたことも報じられました。日本赤十字社が、新型コロナウイルスには「3つの感染症」があると指摘しています。第1の感染症は「病気」、第2の感染症は「不安と恐れ」、第3の感染症は「嫌悪、偏見、差別」です。ウイルスは目に見えません。だからその不安や恐れから感染リスクの高い立場や発熱症状などの目に見える対象を、「危険」という見方をし遠ざけようとしてしまいます。それが偏見や差別を生み、進行すると差別されることを避けようとして、感染を隠すことに繋がります。そうすると誰が感染しているか分からなくなり、第1の「病気」が拡大するという悪循環に入ってしまうのです。それは「誰が悪いか。」というようなとらえ方ではなく、ウイルスが、感染で人間の身体を侵し、不安や恐れから人間の心を侵し、偏見や差別から人間のつながりを分断してしまう原因となっているということです。



少し難しい話になってしまいましたが、これらから自分たちを守るためには、「病気」や「不安」に対してはこの感染症に対する「正しい知識」をもち、予防のための正しい対処をすること、「偏見」に対しては「正しい情報」に基づいた考え方や態度・行動を取ることが何よりも大切です。それは、常に「相手の立場に立った行動」であり、「自分がされていやなことは人にはしない。」ということが基準です。何より「感染したくて感染する人は誰一人としていない。」のです。今は様々な情報で溢れています。特に情報についてはその正誤を選択する能力を高め、安易にまた軽率に拡散させないように十分注意しなければなりません。



早ければ、本日、東京都も「緊急事態宣言」が解除されそう遠くないうちに学校も再開されます。その再開にあたり、「偏見や差別のない学校づくり」にしっかり取り組み、二中生みんなの力を結集して感染症という困難を乗り越えていきましょう。

